



* 「たゆたえども沈まず」 (« FLUCTUAT NEC MERGITUR »)



去る 11 月 13 日 (金) に起きたパリ同時多発テロ事件につきましては沢山の方々からご心配を頂き、ご親切なお見舞いを頂戴致しまして、誠にありがとうございました。お蔭様にて元気に、普通に生活を続けておりますのでご安心下さい。この事件後各地では多くの犠牲者への哀悼と皆の連帯の絆 (la solidarité) を表わす標語等が掲示され、集会も行なわれました。その中で特に目立ったのはパリのシンボル・タワーであるエッフェル塔で、暫くの間フランスのスローガン「自由、平等、友愛」(Liberté, Egalité, Fraternité) を表わす青、白、赤の三色にライトアップされ (l' éclairage en bleu-blanc-rouge)、その上にパリの標語 (la devise de Paris) 「たゆたえども沈まず」(« Fluctuat nec mergitur ») というラテン語の文字が投影されました。これはパリの紋章「セーヌ河に浮かぶ帆掛け舟」に記された「強い雨風で如何に水面が荒れて揺さぶられても、船は沈むことはない」(le bateau est battu par les flots, mais

ne sombre pas.) という意味の標語です。

シャンゼリゼ通りのイルミネーションも煌めき、クリスマス・マーケットも賑わっています。

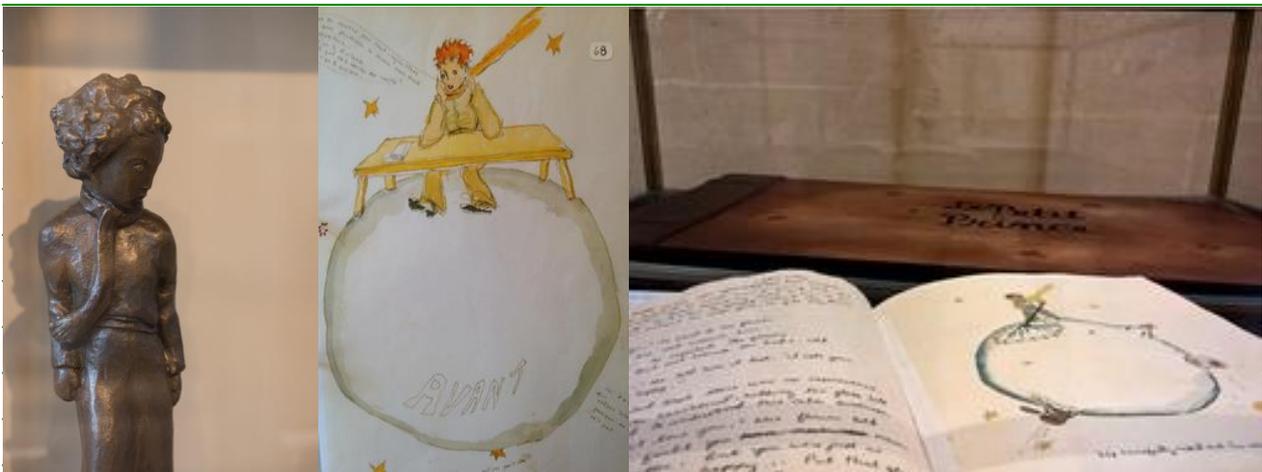
* 「ヴェルサイユに星の王子様」展 (Expo. « LE PETIT PRINCE A VERSAILLES »)



南米航空路の開発に尽くした飛行家であり、「夜間飛行」(Vol de nuit (1931)) 等を著した作家としても知られたサンテックジュペリ (Antoine de Saint-Exupéry (1900-1944)) 略してサンテックス (Saint-Ex)) の傑作「星の王子様」(Le Petit Prince) は、1946 年フランスのガリマール社 (Editions Gallimard) から出版されてより 250 ヶ国語に訳されて (日本では内藤濯・訳) 今日もお代々読み継がれ、「聖書」とマルクスの「資本論」に次ぐ世界第 3 位の売れ行きを保っているそうです。(Il reste toujours le 3^{ème} livre le plus vendu dans le monde après « la Bible » et « Le Capital de Marx ») 1942 年の春、当時アメリカに居たサンテックスは仕事も無く、フランスに戻って飛行家として空軍に加わり活躍したいと考えていましたが、作家という身分、そして何よりも既に 42 才という年齢がそうはさせませんでした。(L' aviateur voudrait quitter les Etats-Unis pour

aller combattre en Europe, mais son âge, 42 ans, et son statut d' écrivain ne le permettent pas.) そんなある時アメリカの出版社の人とマンハッタンで昼食の折に、話をしながら何とはなしに紙ナプキンに描いた絵をみて「何かイラスト入りで物語を書いてはどうか」と冗談混じりの提案がありました。その後ロングアイランドに家を借り、友人のポール・エミール・ヴィクトールが絵の工具箱を贈ったこともきっかけとなって物を書き始めました。彼の頭の中には 1935 年リビアの砂漠に墜落した経験、モロッコに居た頃飼いならした子狐のこと、自分達には恵まれなかった子供の姿の想像、等が行き交い、ほぼ書き上げたものはコンスエロ夫人が描いた自画像をイメージした「小さな王子様」でした。1942 年秋、それ迄に書いたイラスト入りの物語を出版社に渡し、帰ってきたら「小さな王女様」を書く、と約束して (Il promet alors qu' à son retour il écrira un nouveau conte qui s' intitulera La Petite Princesse.) 激しくなってきた戦争の為に空軍に応召され、サルジニアへ参集して行きました。1944 年 7 月、空軍機で地中海上を飛行中に行方不明 (後に「私が撃ち落したらしい、、、」というドイツ軍のパイロットが現れたり、漁師の網に“サンテクジュペリ”と読める名前が入ったブラスレットが引っ掛ったり、、、) となってこの世を去るまでに彼自身は出版されたものを一度も見ることにはなかったのです。

出版後 70 年、当展では《 le Petit Prince 》と作者の横顔、エピソード等を数々の資料、写真、イラスト、などで紹介しています。その中にはエールフランスが保管する貴重な飛行日誌 (Carnet de vol) やコンスエロ夫人 (Consuelo de Saint-Exupéry) の作品で「星の王子様」のイラストになったブロンズ像も展示されています。2016 年 2 月 28 日迄ヴェルサイユ市のエスパス・リショー (Espace Richaud, 78, Boulevard de la Reine, 78000 Versailles) にて、火曜日を除く毎日 12 時—18 時 (土、日は 10 時から) 入場料 5 ユーロ (26 才未満無料) (Espace Richaud : ルイ 14 世治下で聖ヴィンセンシオ・ア・ポーロ女子修道会運営の王立病院、1960 年迄病院として続き、他の病院に統合されてからは、放置されたまま老朽化が酷く、ヴェルサイユ市が 4 年掛りで改修工事を行い、此の度文化センターとして再開、特に 1859 年建立のチャペルは見る価値十分と思います。)



***滞在許可証更新 (LE RENOUVELLEMENT DE TITRE DE SEJOUR) <経験> (2/3)**

(前号から続く) 4月2日、早朝7時半頃から警察署に並びました。40人位の“色々な人達”が既に並んでいました。08時45分、入り口の鉄扉が錆付いた重い音を立てて開き、警察官によるセキュリティ・チェックを受けて中に入り、番号札を取ってロビーに立ちました。スクリーンに映し出される番号を睨むこと2時間余り、やっと自分の番号が現れ、指定の窓口へ行き、揃えた書類を出そうとしましたら、そこは受付の受付(Pré-accueil)で、用件別にそこから別の窓口へ、、、更に待つこと40分程、呼ばれた窓口では揃えてきた書類を一瞥するなり更新手続きに必要な書類のリストに緑色のフェルトペンでX印を入れ、これらの書類を揃えて「7月1日14時30分に外人登録課21番窓口へ出頭すべし」となぐり書き同然のものと、「現在所有の滞在許可証は有効期限が切れても尚3ヶ月有効」という紙を渡されました。しかし、次は指定された日時に来ればよいから、と少々気は楽になり、もう一度必要書類を確かめて7月1日を待ちました。7月1日、生憎この日は日中40℃に達する“酷暑”(la canicule)で、14時頃は最も暑い時間、暑いからと変更も出来ず、木陰もない街道筋を歩いて警察署へ向いました。今度は並ぶ必要もなく、直接に指定された窓口へ行きました。揃えた書類のチェック、係りの女性が“一夫多妻ではないという証明書(Attestation de non polygamie)は?、、あ、日本国籍だったわね、、”一瞬驚きました。署名、両手5本指の指紋取り、、、これから書類審査を無事に通過して新たな滞在許可証が発行されたら取りに来よう携帯電話にメッセージを送る由、用意した返信用封筒は不要、と返されました。そして9月30日迄有効な仮の許可証を呉れました。係りの女性が最後にこう云いました:「皆があんたの様に綺麗にキチンと書類を揃えて持って来て呉れたら、私達はどんなに楽だろう、、、」そういえば、皺になった書類や、4枚別々に撮った写真を持って来て諫められ、受付を拒否されている人達を見かけました。さて友人達の話では、新たな滞在許可証が発行されるにしても、数ヶ月は掛るので、この仮の許可証の延長手続きも何回かしなければならぬ、とのことで“ああ、面倒だなァ、また並ぶのかァ、”との思いでした。(次号へ続く)



***2015年12月12日** Saint Corentin 日の出08時34分・日の入16時53分、パリ朝夕5℃・日中9℃曇天、ニース6℃・16℃晴天、ストラスブール6℃・10℃曇天、ピレネ、アルプス山脈400m以上に降雪

「落葉なほ命たのしみ風と舞ふ」(鈴木七郎)

もう“師走”、お元気で良い年をお迎え下さい。菅 佳夫